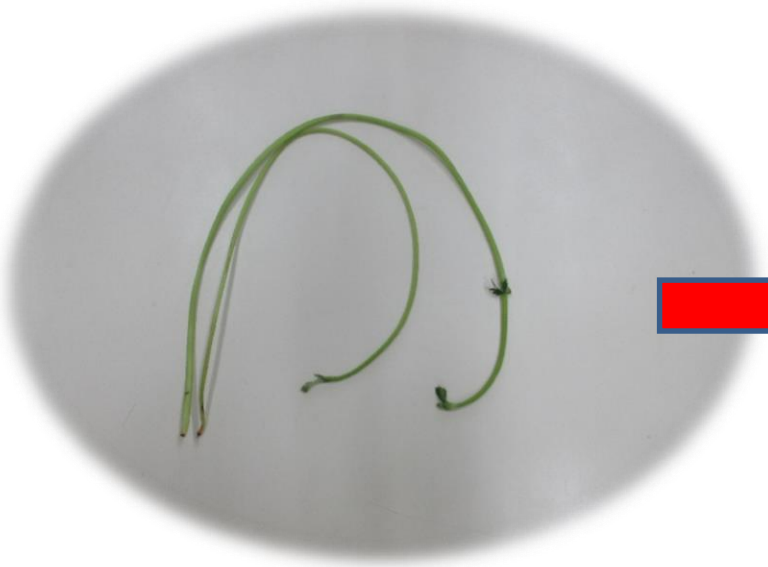
冬を越し、次のステージへ・・

年中さんから育てているイチゴの苗が無事に冬を越しました。頑張って育てていることを応援して、イチゴが大きくなるための栄養を細尾さん（かほちゃんのお母さん）が持たせてくれました。暖かくなって、念願の白い花が咲き始めると「なんこできるかな」「いつたべられるの」「つぎはなにをすればおおきくなるの？」みんなイチゴが食べられるか心配な声も出てきました。さっそくイチゴの先生小松さん（ツムギちゃんのお父さん）に相談してみることになりました。

イチゴの花が咲いたら綿棒などで受粉をするといいそうです。（蜂がいれば自然にやってくれるのでok）



株の中から伸びてくる茎は「ランナー」といいます。取ってしまった方が大きくなるそうです。先を切って植えると株を増やすこともできると！

さっそく植えてみることにしました。たくさんイチゴが出来たらみんなで食べられるよね。

毎日の観察が楽しみになって来た頃、葉っぱの裏にアブラムシがいることを発見しました。「これは大変だ」「助けてもらおう」相談するとすぐに小松さんが薬を準備してくれました。
送り迎えに来ているお家の方からも、「テントウムシがアブラムシ食べるよ」と教えてもらって探しに出かけました。（ずっとくっついていてくれないので難しいようでしたが・・）お家の方も毎日一緒に観察をして楽しみにしてくれています。アドバイスや応援の声掛けもイチゴの生長に大切な栄養ですね。

こーんなイチゴができるといいなー

イチゴが育つには「水・おひさまの光・肥料」が大切だということ、ついている花がイチゴになること、5月の終わりごろには食べられるかな、など聞きたかったことを丁寧に教えてもらいました。頑張って聞きにきてくれたので、ご褒美にイチゴも少しずつ食べさせていただきみんなの期待もまた高まったようです。イチゴの栽培について今後もみんなで相談しながらイチゴと一緒にステップアップしていきます。

キラキラの瞳も満開です

たくさんの春を見つけに、園外にも散歩に出ました。桜やたんぽぽの中で、友達と顔を見合わせて話したり、虫を探したり、みんなの瞳もキラキラでした。
たんぽぽさんの提案で、おやつも外で食べました。「いいね」の声掛けはみんなの和も広げて笑顔がいっぱいになっていました。

季節の歌やお話を一緒に楽しんでいます

「わらべうたつむつむ」のみなさんと春の歌や手遊びを楽しみました。「さくらさんになったんだねー」と進級した姿を喜び、声をかけてくださいました。みんなの成長を一緒に励ましてもらえる地域の方との交流を大切にしていきたいです。